

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分と相手を大切に、考えて行動する名瀬っ子」
(知) 自ら問題を見つけ、解決に向かって、人と関わりながら学び続ける子
(徳) 豊かな心を持ち、自分や周りの人を大切に、よりよく生きようとする子
(体) 自身の健康な心と身体のために、自らの生活習慣をつくる子
(公) 人や自然とのつながりを大切にする、まちが大好きな子
(関) みんなとつながり、未来に向かって生きようとする子

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

自分と相手を大切にする姿勢
自分づくりに関する力
自ら考え、行動する力

具体化した資質・能力

伝え合うことで自分の考えを深化させる力
共通点・相違点を見付け、関係性に気付く力
協働的に解決策を見出す力
他者を理解する態度・自己を理解する姿勢

中期取組目標

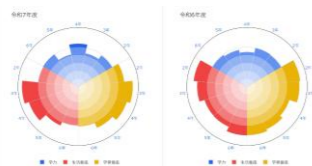
児童一人ひとりが安心して通える学校
・「自分」そして「相手」を大切にできる児童を育成します。
・自ら考え、行動できる児童を育成します。
・目標や育成すべき資質・能力を学校運営協議会や地域と共有・連携しながら実現していきます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (育成を目指す資質・能力をもち、その子どもの姿を明確にした授業づくりを行う。)

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
横浜市学力・学習調査の結果を見ると、令和8年度在籍の児童の学習意識の数値は、市の平均と比べると全体として高い数値となっている。前年度に引き継ぎ、子どもたちが課題意識をもち、主体的・対話的な学びになるような授業に努めてきた成果ではないかと推察される。しかし、学力の数値は横浜市平均を下回っているものもある。また、学年によりその傾向が顕著な学年もある。学習意識が高いにも関わらず、学力がそれに伴っていないという点から、子どもたちの学習意識が学力の定着につながるような授業改善が必要だと考える。児童の実態に合わせた効果的な教材研究を行う必要がある。
(2) これまでの学校の取組状況
○全学年で、一部教科分担任制を行い、指導者が担当する教科を限定した。これにより、指導者が担当教科の教材研究に費やす時間をより確保し、質の高い授業が展開できるようになった。
○4～6年生の算数においては、習熟度別に分けて指導を行った。少人数学習で細やかな支援を行ったり、子どもたちの学力に合った授業づくりを行うことは、質の高い理解を得たり、基礎・基本の定着を図ったりすることにつながった。
○学習の遅れが顕著で、下学年にさかのぼっての学習が必要とされる子どもたちや外国籍または外国につながる子どもたちについては、保護者と連携しながら入り込みや取り出での学習を行った。



今年度の目標

自ら考え、行動する名瀬っ子の姿の実現を目指す。
(自分の学習状況を理解し、実態に合わせて必要な手立てを考えることができるようにする)

目標を実現するための具体的行動プラン

【低学年】◆思いや考えをもつ力 ▽積極的に人に関わろうとする姿勢
○豊かな体験活動を設定することによって、自分の思いをもったり表現しようとする意欲を高める。
【中学年】◆思いや考えを表現する力 ▽主体的・積極的に学ぼうとする姿勢
○興味や関心をもてる場や材を設定することによって、興味や疑問をもち、友達と協働しながら追究していくことができるようにする。
【高学年】◆相手の思いを受け止めながら、思いや考えを表現する力 ▽主体的・積極的に社会に関わろうとする姿勢
○どの授業においても、お互いを意識した対話的な学習の実現を目指し、子どもが主体的に学習を進められるようにする。○一部教科分担任制や習熟度別学習を導入して、授業の質的向上を図り、確かな学力向上につなげる。
【個別支援学級】
○適切な教材や指導場面を工夫し、必要感をもたせることで、思いを伝えたいという意欲を高める。
【低学年】◆順序を考えて思考する力 ▽積極的に学ぼうとする姿勢
○地域や幼稚園、保育園等周りの人との交流を通して、人とつながる場面を計画的に位置付ける。
【中学年】◆大事なことを捉えながら思考する力 ▽主体的・積極的に人・もの・ことに関わろうとする姿勢
○様々な文章を読んだり書いたりする中で、感情語彙を豊かにし、自分の思いを表現する力を高める。○自他の考えの相違点や共通点に気付く、よりよい考えに高めていけるような話し合いをする。
【高学年】◆論理的に思考する力 ▽夢や希望をもって学び続けていこうとする姿勢
○自分と周りの人との関係を捉え、目的に応じて適切に表現し伝えることができるようにする。
【個別支援学級】
○身近な人や物の名前、動作や状態、感情を表す言葉について日常生活での活用を通して身に付ける。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組 (①全ての教育活動において、子どもを尊重し、お互いを認め合うかかわりを実践する。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童の実態
○「学校で安心して過ごすことができましたか。」の結果では、「よくできた」「できた」と回答した児童が9割を超えている。児童同士のかかわりから得られる安心感もあるが、そこに教員がきちんと寄り添うことで、児童の安心につながっていくので、どんな小さなことでもしっかりと見取り、聞き取る必要がある。
○「自分や友達を大切にすることができましたか。」というアンケートでは、約8割の児童が「よくできた」「できた」と回答している。「あまりできなかった」「できなかった」と回答した約2割の児童をよく見ていく必要がある。
○児童の心の安定を図る心の取組としてYPアセスメントシートやいじめアンケートの他に、定期的に安心アンケートと児童一人ひとりに教育相談を行っている。安心アンケートや教育相談の取組について、約9割の児童が「安心して学校生活を送ることにつながった」と回答しており、児童の安心にこの取組が一定の効果を示していることが分かった。また、安心アンケートの1年間のまとめの結果から、「学校が安心できる」と感じることができると「自分や友達を大切にできる」と感じる児童が多いことが分かった。

(2) これまでの学校の取組状況
学校教育目標や児童会テーマを全校児童が意識することができるよう、学校独自のアンケートや委員会活動の「ありがとうの花束」や「認め合いエピソード」、名瀬っ子人権会議の「ハッピーカード」など、自分や友達のよいところを見つけられるような取組やお互いを認め合うことに繋がる活動を学校全体で行った。その結果、学校教育目標アンケートでは、よい結果が得られた。

今年度の目標

道徳の授業を中心としながら教育活動全体を通して、「自分」そして「相手」を大切にできる態度の醸成を推進し、互いを認め合うことができる豊かな心の育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

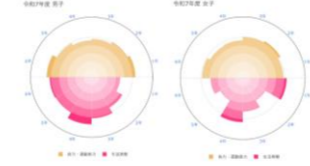
○道徳科教育の中での工夫
授業の中で、「自分はどう考えるか」「相手はどう考えるか」など、多面的、多角的に物事を考えることができるような授業展開を行う。どの授業でも、自分の言葉で友達に話し、友達の考えを聞き、自分の考えを見つめ直す時間をもてるような振り返りを行う。
○ベア学年活動の推進
高学年は、「自分は役に立っている、自分の存在は大切である」という「自己有用感」を、低学年は「自分は大切にされている、自分もあんな高学年のようになりたい」といった「他社信頼」が芽生えるようなベア学年(1・6年、2・4年、3・5年)の活動の取組を推奨していく。さらに、ブロック学年での活動も多く取り入れることで、次の学年に対する憧れと、意識をもてるようにする。
○YPアセスメントシートや安心・安全アンケートや教育相談による見取りの充実
ほぼ毎月、安心アンケート等を実施して児童の実態を把握し、児童の悩みやいじめの早期発見を目指す。また、年に3回、教育相談を実施する。児童一人ひとりと話す時間を設け、児童の不安に思っていることや困っていること、嫌な思いをしている場合には、教員や保護者、関係機関と連携を取りながら解決に向けて一緒に考えていく。
○いじめの起きない学校づくりの推進
子ども会議や人権会議のテーマである誰もが「いじめの起きない学校生活」とはどういうものなのかを各学年で深く考えていく。夏の子ども会議までに、運営委員会、保健委員会を中心とした児童と一緒に取組を決め、夏休み明けから実践していく。実践の振り返り、名瀬っ子人権会議を行い、3月前の取組の改善につなげていく。また、昨年度、「自分や友達を大切にすることができましたか。」というアンケートで良い結果につながったと考えられる児童同士の認め合いにつながるような取組は継続し、新しく発案された取組を実践していく。
○「認め合い」につながる活動
運営委員会の「ありがとうの花束」、放送委員会の「協力エピソード」、保健委員会の「ハートフルの木」など、友達のよいところを見つけられるような取組やお互いを認め合うことに繋がる活動を学校全体で行っていく。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①食育や保健学習など、健康に関する教育活動を充実させ、生活習慣(運動・食事・睡眠)の改善を図る。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態
○新体力テストの結果では、学年により、平均を上回る動きと下回る動きが別れていることがわかった。当該学年の実態に応じて、必要な手立てや運動を行っている必要がある。
○名瀬小学校の傾向として、反復横跳びや50m走が市の平均を下回る学年が多い。敏捷性に課題が見られるので、体づくり運動や陸上運動を通して、運動能力の向上に努めている。
○運動時間は、高学年になるにつれ、増加している。3年生を超えると、朝食をとらない児童が増え始めている。



(2) これまでの学校の取組状況
○保健学習においては、養護教諭や栄養職員と連携しながら授業づくりを行ってきた。適宜、共同で授業を行い、子どもたちの課題解決のための授業を展開した。
○学校保健委員会を年2回実施。保健室に来る子どもたちの実態や全校児童の実態等を考えながら、内容を検討し、実施してきた。
○体育委員会が主催する、「長縄集會」が、子どもたちの定期的な運動を引き出すことにつながった。技術の向上だけでなく、運動を通してかかわり深めることができた。

今年度の目標

運動イベントを通して、体を動かすことやかかわり合いの楽しさを伝える。
学校保健委員会を取り上げられた内容について、日常的に実践することができるよう、具体的な目標を設定して取り組む。

目標を実現するための具体的行動プラン

○新体力テストの結果から、学年により平均を下回る動きが違うことがわかった。学校一律で取り組むのではなく、新体力テストの結果をそれぞれの学年に伝え、より高めるべき動きについて共通理解を図っていく。そして、その動きを高める運動や体づくりの動きなどを、体育部が中心となって広めていき、児童の体力向上に努めていく。
○保健学習において、養護教諭や栄養職員と連携しながら授業づくりを行うようにする。適宜、共同で授業を行い、子どもたちの課題解決のための授業を展開できるようにする。
○体育委員会委員会の活動を中心に、全校児童がそれぞれの運動目標に向かって取り組む時間を設定する。休み時間に、運動場に出て活動しやすくなるようなきっかけを作っていく。
○新体力テストの個票データを、横浜スタジアムをもとに確認し、子どもたち自身が自分の体力を的確に把握することで、体育学習における「個別最適な学び」を展開できるようにしていく。